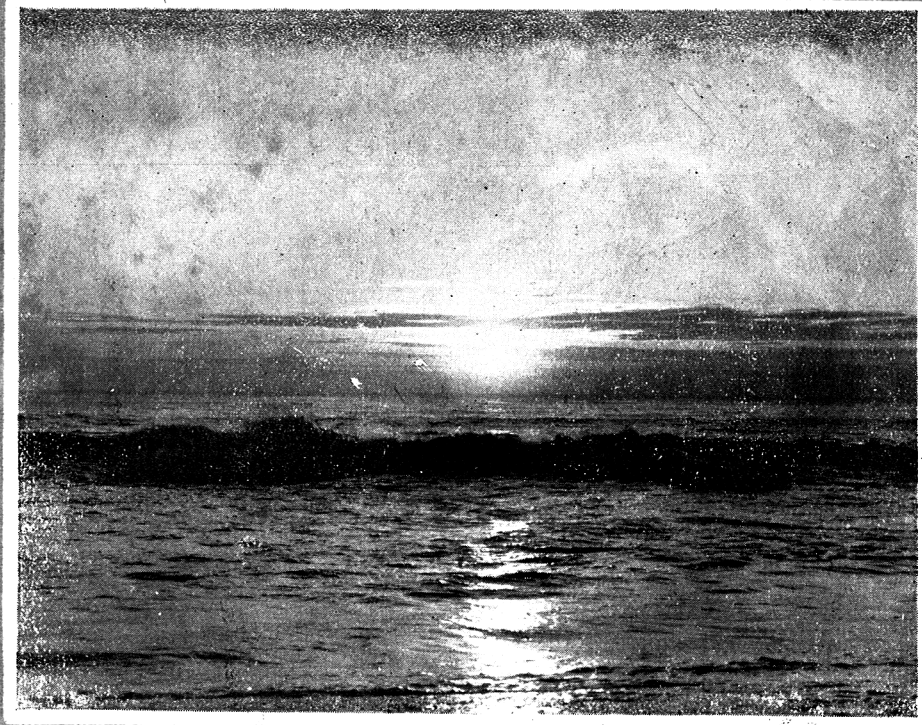


茨城調査時報



目次

新年のあいさつ.....	1
新年を迎えて.....	2
毎月勤労統計調査結果速報.....	3
統計図表の作り方(その4).....	7
昭和30年工業統計調査結果速報(その5).....	9
毎月人口世帯異動調査結果速報.....	13
11月における農村物価賃金の動き.....	15
新市町村の横顔.....	17
本県における年齢階級別死因別死亡者数.....	19
生産動態調査.....	23
〔願想〕新しい市町村への途.....	29
統計用語の解説・編集室.....	30

1957.1



新年のあいさつ

茨城県知事 友 末 洋 治

新年おめでとう存じます。

今年は、財政が安定する年

道路がよくなる年

引き続いて豊作の年

新しい村づくり町づくりに精進する年

原子力が勢いよく出発する年

など、あれこれと希望はつきません。とにもかくにも、よい年柄にしたいと心から念じ、正月早々から張り切つてとび出す用意を整えております。

よい年柄にするため、何はさておいても、まず考えておかなければならぬたいせつなことは、国際関係ではないかと存じます。日本の国の外では、嵐が激しく吹きまくっております。私どもは、この嵐の余波を是が非でも避けなければなりません。余波の被害を食いとめるには、私ども日本国民が、民族自決の自覚に立つて、これに筋金を入れ、結束をより強めて実力をつちかう以外に道はないと存じます。

まさに、日本民族再出発の年を迎えました。

ここに、県民の皆さまの御多幸と御繁栄とを心から祈念いたしまして、新年のごあいさつを申し上げます。



新年を迎えて

茨城県統計協会会長 木村 凡夫
茨城県総務部長

明けましておめでとうございます。

ここに明るい希望に満ちた昭和32年の初春を迎え、皆様の御慶福を心からお喜び申し上げます。

さて昨年は戦後初めての国富調査や、隔年ごとに行われる商業調査をはじめ、農業基本調査、工業統計調査、その他各種の調査が実施されましたが、関係各位には諸種の困難な条件をよく克服して特別の御精励と御協力をいただきここに立派な成果を収めることができましたことを心から感謝いたします。

今やわが国をめぐる内外の情勢は、ますます複雑多岐をきわめております。まず外には全国民多年の宿願であつた日ソの国交回復と国際連合への加入を実現して、いよいよ自主独立と国際外交の活路を開き、世界人類の平和と幸福増進に寄与する重大な責任と地位を持つたのであります。また内には2年続きの豊作と鉱工業生産力の増大によつて、今や戦前戦後を通じて最高の伸展を示し、国民生活も次第に安定向上の一途をたどつております。

次に地方自治体にあつては、明治以来最も困難なものとされた町村合併の歴史的大事業も200万県民各位の理解と献身的努力によつて、昨年秋にはその大部分を完了し、今や地方財政の再建と行政事務の簡素化、能率化を計り、あくまで融和協調の精神を基調として、地域住民の福祉増進のために新しい郷土をめざして再発足したことは誠に御同慶に堪えません。この点からまさに本年は、内に地方行政史上における一大転換を迎え、外に国際的舞台へ飛躍すべき重大な年といえましょう。

そこで私たちは、まず産業規模の拡大や設備の近代化と経済安定の理論的調整を計つて、完全雇傭と生産力の増強や輸出の増加を確保することが絶対に必要であり、他面消費生活の合理化と堅実化によつて国民所得と生活水準の向上を計らなければなりません。

そのためには、戦後十年間における経済的、社会的事情の推移と現状を正確、迅速に掌握して、科学的立場から慎重な分析を行い、一日も早くインフレのない経済発展の合理的な総合計画を樹立推進しなければならないと思います。私たちの関係する調査統計事業の重要使命もここに倍加され、ますますその責任を痛感する次第であります。また町村合併後における新市町村建設計画の樹立調整のためにも、その他地域内の基本的実態を調査して各自治体における財政力の増強と経常費の節減に努め、住民の福祉増進を計る諸施策を重点的かつ効果的に実施しなければなりません。そこに初めて住民自らの手によつて、明るく住みよい郷土が着実に作り上げられるのであります。私たちは、今後も新市町村を中心とする調査統計機能の強化に努め、統計をして真に自治体発展の礎石たらしめたいと思います。

どうか皆様には、近代国家における統計の持つ意義と使命をよく自覚して、広く知識を求め、技術を磨き、一般県民に対しても統計思想の理解と関心を深めるようにたゆまぬ努力をつづけ、本県の調査統計事業の改善発展のため、なお一層の御活躍を下さるよう、心からお願い申し上げます。

毎月勤労統計調査結果速報

(昭和31年11月分)

労働省大臣官房労働統計調査部

茨 城 県

— 結 果 の 概 況 —

1. 現金給与は微増

11月分調査産業総数労働者1人当り現金給与額は、15,240円である。10月は夏期手当やその他の臨時手当などの打切りなどによつて1,498円他大巾に減少したが11月は97円の増加で僅かではあるが上昇傾向を示した。また前年同期に比べれば14,860円対前月差209円に比べれば380円の増加である。

〃きまつて支給される給与〃は15,071円で96円。臨時給与は169円で11円と何れも僅かではあるが増加した。産業別にこれを見ると卸売及び小売業889円、建設業707円を筆頭に食料品製造業、紡織業、機械製造業、電気機械器具製造業など何れの産業も増加した。

減少産業は金融及び保険業の356円を最高とし鉱業、医療保健業一括産業などである。

臨時日雇の1日平均賃金271円で15円の減少である。

産業別に見ると機械製造業は500円台を示し本月も542円と最高を示している。最低は医療保健業の182円である。

2. 労働時間は減少

11月の常用労働者1人平均月間実労働時間数は産業総数で200.1時間で1.5時間の減少である。

〃所定内労働時間は3.4時間の減少である。出勤日数は祝祭日があつたので0.5日の減少である。

3. 労働異動は活発に行われた。

本月末労働者総数は68,860人で男55,713人、女13,147人である。増加労働者総数は1,677人で減少労働者総数は1,080人で結局597人の増加である。

労働異動の最も活発に行われた産業は機械製造業、建設業である。機械製造業は713人の入職者、332人の退職者があつた。

産業別常用労働者1人平均月間現金給与額

産 業 別	現金給与額	差 月 前 対
総 数	15,240	+ 97
D 鉱 業	14,563	- 339
F 製 造 業	14,253	+ 184
20 食 料 品 製 造 業	11,933	+ 339
22 紡 織 業	6,683	+ 644
35 機 械 製 造 業	12,946	+ 4
36 電 気 機 械 機 具 製 造 業	16,049	+ 58
G 卸 売 及 び 小 売 業	13,153	+ 889
H 金 融 及 び 保 険 業	20,582	- 356
J 運 輸 通 信 及 び そ の 他 の 公 益 事 業	17,711	+ 62
E 建 設 業	10,423	+ 987
K88 医 療 保 健 業	14,360	- 189

第1表 産業別常用労働者の種類及び性別1人平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額 (規模30人以上) (単位円)

産 業 名	現金給与総額			きまつて支給する給与			特別に支払われた給与			臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額
	総 数	男 子	女 子	総 数	女 子	男 子	総数	男子	女子	
全 常 用 労 働 者										
総 数	15,240	17,086	7,451	15,071	16,879	7,443	169	207	8	271
D 鉱 業	14,563	15,391	5,826	14,563	15,391	5,826	0	0	0	305
F 製 造 業	14,253	16,596	6,484	14,233	16,570	6,483	26	1	20	259
20 食 料 品 製 造 業	11,933	14,620	5,260	11,933	14,620	5,260	0	0	0	284
22 紡 織 業	6,687	14,050	5,749	6,687	14,050	5,749	0	0	0	240
35 機 械 製 造 業	12,946	14,256	6,563	12,946	14,256	6,563	0	0	0	542
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	16,049	17,773	7,219	16,049	17,773	7,219	0	0	0	238
G 卸 売 及 び 小 売 業	13,153	15,098	7,058	13,086	15,036	6,974	67	62	84	251
H 金 融 及 び 保 険 業	20,582	25,717	11,174	20,582	25,717	11,174	0	0	0	0
T 運 輸 通 信 業 及 び その他の公益事業	17,711	18,810	10,639	17,021	18,013	10,634	690	797	5	279
E 建 設 業	10,423	11,176	5,878	10,423	11,176	5,878	0	0	0	313
K88 医 療 保 健 業	14,360	20,658	10,207	14,360	20,658	10,207	0	0	0	182
管 理 事 務 及 び 技 術 労 働 者										
D 鉱 業	14,401	15,065	5,424	14,401	15,065	5,424	0	0	0	—
F 製 造 業	11,955	13,926	6,013	11,929	13,900	6,013	26	26	0	—
20 食 料 品 製 造 業	10,281	12,830	4,742	10,281	12,830	4,742	0	0	0	—
22 紡 織 業	5,901	11,035	5,632	5,901	11,035	5,632	0	0	0	—
35 機 械 製 造 業	12,027	13,021	6,516	12,027	13,021	6,516	0	0	0	—
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	13,370	14,715	6,619	13,370	14,715	6,619	0	0	0	—
E 建 設 業	8,357	9,030	4,594	8,357	9,030	4,594	0	0	0	—
生 産 労 働 者										
D 鉱 業	15,541	17,685	6,687	15,541	17,685	6,687	0	0	0	—
F 製 造 業	20,087	22,811	8,094	20,086	22,811	8,093	1	0	1	—
20 食 料 品 製 造 業	16,473	18,884	7,397	16,473	18,884	7,397	0	0	0	—
22 紡 織 業	12,427	15,956	7,652	12,427	15,956	7,652	0	0	0	—
35 機 械 製 造 業	15,749	18,364	6,661	15,749	18,369	6,661	0	0	0	—
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	21,481	23,915	8,500	21,481	23,915	8,500	0	0	0	—
E 建 設 業	14,179	14,957	8,722	14,179	14,957	8,722	0	0	0	—

第2表 産業別常用労働者の種類別及び性別1人平均月間実労働時間数及び出勤日数(規模30人以上)

産 業 名	総実労働時間数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			出 勤 日 数		
	総 数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
全 常 用 勞 働 者												
総 数	200.1	202.9	188.4	179.4	179.1	180.6	20.7	23.8	7.8	23.9	23.9	23.8
D 鉱 業	163.4	194.8	178.3	170.0	170.0	170.3	23.4	24.8	8.0	23.2	23.2	23.6
F 製 造 業	208.2	214.0	189.9	180.9	181.2	180.0	27.3	32.8	8.9	24.0	24.2	23.4
20 食 料 品 製 造 業	199.9	207.8	180.1	183.3	186.9	174.1	16.6	20.9	6.0	24.2	25.0	22.2
22 紡 織 業	191.5	202.4	190.1	189.2	185.9	189.6	2.3	16.5	0.5	23.7	23.6	23.7
35 機 械 製 造 業	221.2	224.6	205.3	193.2	192.5	197.0	28.0	32.1	8.3	24.4	24.4	24.7
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	212.9	217.4	190.4	181.7	182.9	175.9	31.2	34.5	14.5	24.3	24.5	23.5
G 卸 売 及 び 小 売 業	202.1	199.0	211.9	188.7	183.0	206.7	13.4	16.0	5.2	25.3	25.0	26.3
H 金 融 業	170.9	170.1	172.3	165.1	164.4	166.2	5.8	5.7	6.1	23.7	23.6	23.9
T 運 輸 通 信 及 び その他の公益事業	190.8	191.5	186.3	182.6	182.8	181.0	8.2	8.7	5.3	23.7	23.6	24.1
E 建 設 業	191.9	193.0	185.1	181.1	182.8	170.8	10.8	10.2	14.3	23.6	23.7	22.8
K88 医 療 及 保 健 業	194.5	194.2	194.5	181.2	180.2	181.8	13.3	14.0	12.7	23.9	24.1	23.8
生 産 勞 働 者												
D 鉱 業	192.4	193.2	182.4	168.7	168.3	174.1	23.7	24.9	8.3	22.9	22.9	23.7
F 製 造 業	208.7	215.5	188.1	179.9	179.8	180.0	28.8	35.7	8.1	22.8	24.0	23.5
20 食 料 品 製 造 業	199.0	208.1	179.0	182.1	185.6	174.3	16.9	22.5	4.7	24.1	25.0	22.1
22 紡 織 業	190.7	209.6	189.6	189.0	183.7	189.2	1.7	25.9	0.4	23.6	23.9	23.7
35 機 械 製 造 業	224.5	227.5	208.0	192.6	191.7	197.5	31.9	35.8	10.5	24.4	24.4	24.8
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	213.9	218.8	189.2	180.7	182.0	173.9	33.2	36.8	15.3	24.2	24.4	23.2
E 建 設 業	177.8	179.3	169.2	172.5	174.2	162.9	5.3	5.1	6.3	22.9	23.0	22.3
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者												
D 鉱 業	198.8	205.8	169.8	177.6	181.3	162.3	21.2	24.5	7.5	25.1	25.5	23.4
F 製 造 業	207.0	210.5	191.5	183.6	184.5	179.9	23.4	26.0	11.6	24.4	24.6	23.7
20 食 料 品 製 造 業	202.4	207.2	184.4	186.5	190.1	173.2	15.9	17.1	11.2	24.6	25.1	22.7
22 紡 織 業	198.2	198.0	198.4	190.9	187.4	195.6	7.3	10.6	2.8	24.2	24.0	24.5
35 機 械 製 造 業	211.4	214.7	199.8	195.3	195.0	196.1	16.1	19.7	3.7	24.5	24.5	24.6
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	211.1	214.6	192.8	183.9	184.6	180.2	27.2	30.0	12.6	24.6	24.7	24.1
E 建 設 業	217.6	217.2	220.3	196.7	197.9	188.3	20.9	19.3	32.0	24.9	25.1	23.9

第3表 産業別常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の月間推計延人員(規模30人以上)

産 業 名	前日末労働者数			本日中の増加			本日中の減少			本日末労働者数			臨時及び日雇労働者の月間推計延人員
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
全 常 用 勞 働 者													
總 数	68,721	55,226	13,495	1,677	1,438	239	1,080	862	218	68,860	55,713	13,147	62,393
D 鉱 業	10,954	9,080	974	531	499	32	266	233	33	11,218	10,259	959	9,917
F 製 造 業	35,658	27,087	8,571	964	798	166	671	518	153	35,493	27,297	8,196	12,912
20 食 料 品 製 造 業	2,746	1,955	791	24	13	11	73	43	30	2,698	1,926	772	4,584
22 紡 織 業	2,478	310	2,168	17	1	16	35	15	20	2,001	220	1,781	98
35 機 械 製 造 業	2,145	1,784	361	63	54	9	78	75	3	2,130	1,763	367	155
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	19,479	16,287	3,192	713	620	93	332	284	48	19,861	16,624	3,237	210
G 卸 売 及 び 小 売 業	4,275	3,279	996	109	77	32	88	73	15	4,296	3,251	1,045	18,139
H 金 融 及 び 保 險 業	2,537	1,642	895	0	0	0	16	12	4	2,521	1,630	891	0
T 運 輸 通 信 及 び その 他 の 公 益 事 業	15,297	13,238	2,059	73	64	9	39	26	13	15,332	13,276	2,056	21,415
E 建 設 業	5,620	4,788	832	482	454	28	261	228	33	5,841	5,029	812	49,666
K88 医 療 保 健 業	2,390	955	1,435	43	8	35	21	10	11	2,412	953	1,459	88
生 産 勞 働 者													
D 鉱 業	9,375	8,727	648	513	490	23	227	216	11	9,661	9,001	660	—
F 製 造 業	25,239	18,902	6,337	799	670	129	559	436	123	25,479	19,136	6,343	—
20 食 料 品 製 造 業	2,016	1,379	637	14	8	6	54	32	22	1,976	1,355	621	—
22 紡 織 業	1,770	88	1,682	16	0	16	19	0	19	1,767	88	1,679	—
35 機 械 製 造 業	1,618	1,376	242	58	50	8	74	74	0	1,602	1,352	250	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	13,024	10,845	2,179	584	519	65	281	237	44	13,327	11,127	2,200	—
E 建 設 業	3,583	3,021	562	469	441	28	241	211	30	3,811	3,251	560	—
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者													
D 鉱 業	1,578	1,266	312	18	9	9	39	17	22	1,557	1,258	299	—
F 製 造 業	9,961	8,115	1,846	165	128	37	112	82	30	10,014	8,161	1,853	—
20 食 料 品 製 造 業	731	577	154	10	5	5	19	11	8	722	571	151	—
22 紡 織 業	249	146	103	1	1	0	16	15	1	234	132	102	—
35 機 械 製 造 業	527	408	119	5	4	1	4	1	3	528	411	117	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	6,456	5,443	1,013	129	101	28	51	47	4	6,534	5,497	1,037	—
E 建 設 業	2,037	1,782	255	13	13	0	20	17	3	2,030	1,778	252	—

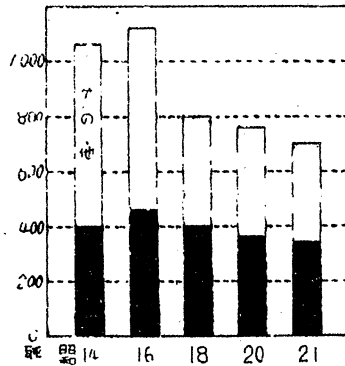
統計図表の作り方

〔その4〕

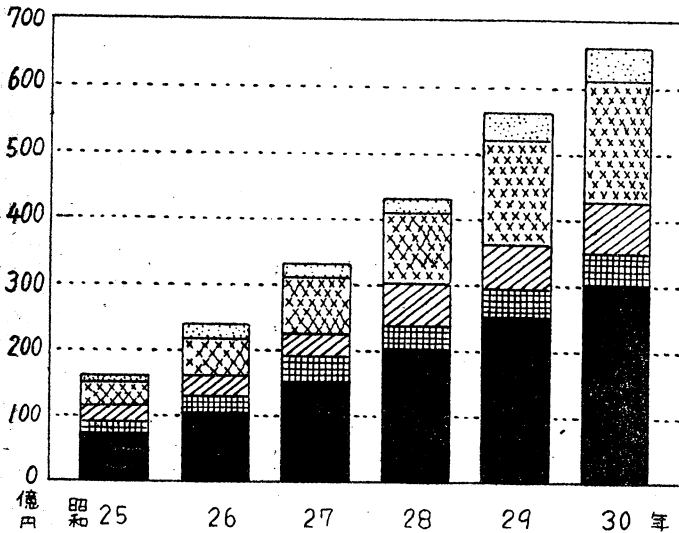
棒の内訳

棒図の棒の全長だけを比較するのではなく、各棒の内訳を示してその内容をも比較するようにかいた第10図は世界の金産額を年別に示し、その中で南アフリカの生産高とその他の国の分とを内訳で示したのだが、このように棒の内訳をきわめて簡単に示すならば、決して見にくくはない。今さら申すまでもなく、南アフリカは世界最大の金産地で、世界総計の約3分の1ないし半分を占

第10図 世界金産額



第11図 県下金融機関別一般預金



め、その多少が世界産額を左右するので、その関係は第10図によってよくわかるのである。

しかるにこの棒の内訳が第11図のように複雑になると見るのに骨が折れる。この図は茨城県の金融機関別一般預金高を示したもので、銀行は棒の最下部に取つたから全部が水平線上に並んで比較が容易だが、その他の種類になると、基底が区々な棒の高さの比較となるから、わ

ずかの差は見分け難く、しかも、直線の上に並んでいないから、各種類の預金高を目もりで目測することに困難を感じる。この図のように1本の棒を数区分にも内訳したものは決して見やすいものでなく、推奨すべき統計図表のかき方でないのである。ゆえにこういう場合に特に内訳を示す必要があるならば、内訳だけを別の図表となし、各品種別に棒図表とし、これらを連ねて1図とするようなかき方を採ればよいと思う。しかし、そうすると数値の大小の差の関係上、総預金高を示す図と、内訳を示す図と二面にすべきである、それを一面にしたところにこの図表の無理があるのである。統計図表は間違なく示し得たというだけで安心してはいけなないので、間違わなくともわかり悪いのは図表としての価値を失うものといわねばならない。

面積図表

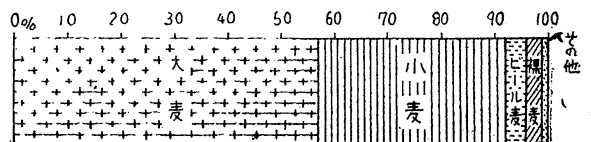
面積図表は面積の比較により数値の大小を表示する図表で、その面積を表わす形式は種々あり得るわけだが、普通に行われるのは方形と円形が多く、特殊の場合にそれ以外の形が用いられる。これらの面積を示す形の種類によって説明を進めて行こう。

長方形図表

長方形図表は面積図表として最も多く用いられるもののひとつである。これは長方形の面積をいくつかに割り、その各部分の割合を示す図表で、第12図はその例である。この例図によってわかる通り、一般に面積図表では棒図の場合のように、いくつもの数値を比較的確に読み得るようにかき表わすことは困難であつて、ただ、その大体の大小の割合を示すという図表になってしまうのである。とくに、第12図は内訳を示す図表で、各部分の大体の割合がわかるだけのものである。

後に述べるように面積図表はある事柄の内訳や割合を表わすものが多いのである。元来面積とは縦と横との積である。棒図のように長さだけの比較ならば目で見てすぐわかるが

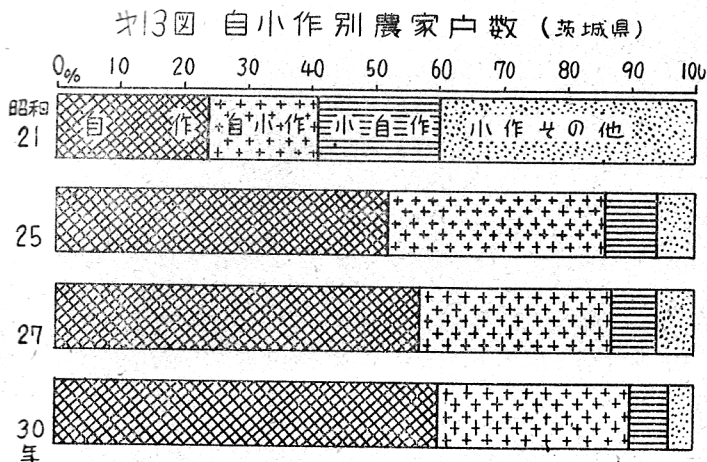
第12図 茨城県の麦類収穫高 (昭和29年)



縦の辺に横の辺を乗じた数値を比較するのは目で見ただけでは不可能である。しかるに第12図のような長方形は形式的には面積図であるけれども、棒図の中の1本の棒を幅広くして内訳したものと観念し得る図であつて、各区分は天地の高さが同一であるから、その面積は長辺の長さ按比例するわけで、面積とはいへ実は長辺の長ささえ一見すればよいのである。ゆえに長方形図は見やすいのである。そして図形の上部又は下部にこれを百分したパーセントの目もりを付けて置けば図表をさらに見やすくすることであらう。

長方形図表における区分のとり方は右からでも左からでもよいが、なるべく各区分の大きさの順位にとるのが図を見やすくする。そして「その他」というような区分はたとえ大きくても最後に置くのがよい。模様をつける場合には「その他」だけ白く無模様で残すとか、あるいは彩色図の場合はその他だけ彩色せず置くのがよい。目もりをつける場合は、左から順に区分をとつた図表においては目もりも左から、右から取つた場合には目もりも右からつけるのが適当である。

長方形図を幾本も連続してかいたのが第13図である。この図は茨城県の自小作別農家戸数の傾向を示したもの



で、昭和21年より昭和30年まで、調査の行われた年の総農家戸数を各100とし、自作、自小作、小自作、小作その他、戸数の総農家戸数に対する割合を表わしたもので、自作、自小作への傾向をハッキリと示している。図について見ると農地解放による、自作、自小作への割合が著しく大となり、小自作、小作その他の割合がはなはだ減つていくことを知るであろう。前に棒図のところ棒の内訳をいくつにも分割するのは図表をわかりにくくすると述べたが、普通の棒図では各棒の長さが区々となるため、そういう結果となるのだけれども、この第13図のように各年の棒の長さがすべて一定で、ただ内訳の百分比だけを示すのならば、この難点はよほど救われるわけで、

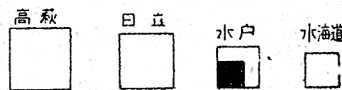
とくに非難すべき図柄ではない。ただし、こういう図であつても、その内訳が簡単であればあるほど見やすいことはいうまでもない。一般に長方形内の区分を切るには前に述べたように、区分の大きさの順位によるのが見やすいが、しかし、その区分の性質によつて必ずしもできない場合もある。

方形及び多角形の面積図表

正方形の面積で個々の数値を表わし、それを比較したかき方が第14図である。この図は高萩、日立、水戸、水海道の4市の市域面積比較であるが、この図で高萩市の面積は日立市より約13%多く、水戸市に比べると約4割5分ほど多いのだが、そういう数値はこの図を見ただけでは目測することがはなはだ困難である。また昭和30年4月以前水戸の旧市域の面積に比べると、現在の水戸市は約2倍強の広さだが、その目測も困難である。この図は面積の比例でかいてあり、正方形の面積はその一辺の長さの自乗を暗算してその大きさを脳裏で比較することが困難であるため、この図を見て直ちに大小の比例割合をつかみ得ないのである。前

に述べた長方形の内訳の場合のように一辺の長短だけを見て比較し得るものではないからである。このように面積の比例による図表は一見して大小の比例をハッキリ印象させるという統計図表の目的からいつて、決して好んで用うべき図示方法ではない。一般に面積比例図では大小の差は少なく見えがちである。第14図で高萩市の面積は水海道市の3倍だが、図の上ではそれほど差があるとは見えないであろう。正方形という割合に比較しやすい面積図においてすら、すでにこの困難があるのだから、三角形とか、六角形とか、あるいは、それ以外の多角形の面積を比較するとなれば、一見して、その大小の差を知ることが、さらに困難になる。ゆえに、これら多角形の比較は統計図表をかくにはなるべく避くべきことはいふまでもない。(次号へ続く)

第14図 茨城県新市の面積 (昭和31年5月)



昭和30年工業統計調査結果速報 (その5)

5. 市町村別統計表 (続)

商工調査係

市町村別	事業所数			従業者数			製造品出荷額(千円)		
	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上
総計	5,852	3,556	2,296	61,611	8,182	53,429	67,509,418	2,794,810	64,714,608
水戸市	416	200	216	3,940	456	3,484	4,730,265	131,881	4,598,384
日立市	374	119	255	21,153	294	20,859	35,451,109	106,739	35,344,370
土河市	282	181	101	1,933	425	1,508	1,268,201	190,477	1,077,724
古河市	307	176	131	3,982	382	3,600	2,762,582	152,424	2,610,158
石岡市	215	106	109	1,810	232	1,578	1,543,079	69,985	1,473,094
下館市	244	151	93	2,706	331	2,375	2,216,600	117,554	2,099,046
結城市	331	261	70	1,652	517	1,135	1,346,516	96,447	1,250,069
竜崎市	108	67	41	726	141	585	817,706	45,460	772,246
那珂湊市	150	101	49	1,322	283	1,039	1,097,854	310,935	786,919
下妻市	84	58	26	502	144	358	374,313	55,171	319,142
水海道市	84	49	35	554	118	436	432,063	36,916	395,147
常陸太田市	154	86	68	1,052	216	836	699,867	50,905	648,962
勝田市	68	30	38	2,481	74	2,407	2,908,280	27,758	2,880,522
高萩市	63	24	39	676	63	613	462,360	17,900	444,460
東茨城郡	386	252	134	1,928	587	1,341	2,357,905	132,303	2,225,602
常陸清水村	18	15	3	128	32	96	90,794	8,747	82,047
常陸大洗町	2	1	1	x	x	x	x	x	x
常陸大洗町	20	14	6	348	28	320	1,620,964	13,683	1,607,281
常陸大洗町	26	17	9	115	35	80	66,948	3,082	63,866
常陸大洗町	36	18	18	255	42	213	144,943	12,973	131,970
常陸大洗町	18	17	1	52	x	x	18,817	x	x
常陸大洗町	14	8	6	55	16	39	19,963	3,690	16,273
常陸大洗町	15	14	1	54	x	x	28,846	x	x
常陸大洗町	4	4	—	11	11	—	1,340	1,340	—
常陸大洗町	17	10	7	75	24	51	44,532	4,496	40,036
常陸大洗町	9	7	2	29	x	x	7,405	x	x
常陸大洗町	11	6	5	46	9	37	24,356	515	23,841
常陸大洗町	196	121	75	747	301	446	284,587	55,444	229,143
西茨城郡	212	114	98	2,070	243	1,827	791,420	52,608	738,812
笠間町	82	51	31	439	116	323	202,077	22,958	179,119
友部町	33	13	20	305	23	282	160,905	5,519	155,386
岩間町	47	39	8	176	77	99	64,076	20,828	43,248
七会村	2	—	2	x	—	x	x	—	x
稲田町	15	1	14	887	x	x	274,634	x	x
岩瀬町	33	10	23	238	24	214	84,520	2,867	81,653

市町村別	事業所数			従業者数			製造品出荷額(千円)		
	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上
那珂郡	180	102	78	1,046	239	807	753,238	69,718	683,520
東海村	10	8	2	60	x	x	36,079	x	x
那珂町	47	31	16	295	80	215	297,312	19,370	277,942
国田村	4	4	—	8	8	—	1,082	1,082	—
瓜連町	16	8	8	113	19	94	63,895	4,292	59,603
大宮町	37	17	20	231	40	191	131,225	10,024	121,201
山方町	23	12	11	125	23	102	93,210	3,425	89,785
檜沢村	2	1	1	x	x	x	x	x	x
小瀬村	6	2	4	22	x	x	10,723	x	x
長倉村	15	7	8	82	13	69	30,179	970	29,209
八里村	11	10	1	27	x	x	6,219	x	x
嵯郷村	9	2	7	73	x	x	68,904	x	x
久慈郡	113	32	81	867	85	782	640,780	36,465	604,315
金砂郷村	10	6	13	117	18	99	83,875	3,305	80,570
天下野村	5	—	5	30	—	30	12,533	—	12,533
高倉村	3	1	2	15	x	x	8,854	x	x
水府村	10	1	9	80	x	x	65,426	x	x
賀美村	9	3	6	58	7	51	45,008	7,107	37,901
小里村	7	2	5	47	x	x	25,165	x	x
大子町	60	19	41	520	49	471	399,919	23,360	376,559
多賀郡	142	54	88	1,156	132	1,024	1,126,814	48,601	1,078,213
豊浦町	11	7	4	60	18	42	124,548	9,601	114,947
十王町	12	4	8	79	12	67	60,733	4,227	56,506
南中郷村	13	8	5	117	21	96	487,731	6,722	481,009
磯原町	23	13	10	171	35	136	108,280	13,445	94,835
関原村	24	10	14	168	18	150	74,268	7,160	67,108
大津町	39	8	31	373	17	356	201,871	5,459	196,412
平瀧町	15	3	12	141	8	133	48,134	1,445	46,689
関本村	5	1	4	47	x	x	21,249	x	x
鹿島郡	460	279	181	2,409	708	1,701	1,308,786	315,147	993,639
旭村	36	33	3	104	77	27	55,062	34,577	20,485
鉾田町	36	20	16	305	50	255	234,965	16,288	218,677
大洋村	28	13	15	148	26	122	54,733	4,027	50,706
大野村	38	11	27	322	32	290	162,730	7,230	155,500
鹿島町	58	41	17	256	103	153	135,538	40,555	94,983
神栖村	66	56	10	242	137	105	127,623	89,022	38,601

市町村別	事業所数			従業者数			製造品出荷額(千円)		
	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上
若松村	46	29	17	190	76	114	129,390	30,388	99,002
波崎町	152	76	76	842	207	635	408,745	93,060	315,685
行方郡	201	162	39	712	382	330	365,773	123,536	242,237
麻生町	59	52	7	173	124	49	63,791	39,296	24,495
牛堀町	17	12	5	73	28	45	18,410	6,990	11,420
潮来町	57	44	13	239	107	132	179,468	41,758	137,710
北浦村	25	21	4	98	48	50	56,956	12,995	43,961
玉造町	43	33	10	129	75	54	47,148	22,497	24,651
稲敷郡	145	108	37	1,698	241	1,457	1,384,665	62,172	1,322,493
江戸崎町	19	12	7	101	28	73	63,860	8,505	55,355
美浦村	19	19	—	42	42	—	14,158	14,158	—
阿見町	22	9	13	1,081	25	1,056	902,168	6,923	895,245
茎崎村	4	4	—	9	9	—	750	750	—
牛久町	26	16	10	277	43	234	291,901	11,331	280,570
新利根村	13	10	3	52	22	30	46,535	4,029	42,506
大須賀村	3	2	1	25	x	x	24,480	x	x
阿波村	4	4	—	9	9	—	565	565	—
桜川村	13	12	1	36	x	x	14,525	x	x
河内村	5	5	—	10	10	—	2,305	2,305	—
金江津村	6	5	1	31	x	x	17,507	x	x
東津村	11	10	1	25	x	x	5,911	x	x
新治郡	158	121	37	628	292	336	290,440	93,265	197,175
出島村	49	42	7	141	100	41	52,711	27,358	25,353
玉里村	7	6	1	41	x	x	22,369	x	x
八郷町	54	40	14	225	99	126	95,881	33,333	62,548
千代田村	10	5	5	58	9	49	49,574	1,025	48,549
新治村	20	14	6	105	40	65	45,514	14,755	30,759
桜村	18	14	4	58	30	28	24,391	9,341	15,050
筑波郡	184	140	44	670	288	382	258,355	74,638	183,717
谷田部町	31	26	5	87	52	35	26,403	17,778	8,625
伊奈村	20	16	4	46	29	17	8,197	4,417	3,780
谷和原村	15	13	2	38	x	x	15,810	x	x
豊里町	20	16	4	82	34	48	28,694	1,931	26,763
吉沼村	13	13	—	28	28	—	13,360	13,360	—
作岡村	1	1	—	x	x	—	x	x	—
菅間村	5	4	1	21	x	x	8,306	x	x

市町村別	事業所数			従業者数			製造品出荷額(千円)		
	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上	総計	従業者 3人以下	従業者 4人以上
筑波町	59	36	23	262	73	189	104,277	15,623	88,654
大穂町	20	15	5	105	34	71	53,293	6,890	46,403
眞壁郡	201	132	69	1,272	311	962	657,363	61,046	596,317
関本町	16	10	6	64	22	42	35,023	5,166	29,857
河内村	2	2	—	x	x	—	x	x	—
黒子村	11	9	2	43	x	x	15,800	x	x
明野町	17	14	3	75	37	38	130,921	6,140	124,781
眞壁町	132	85	47	956	196	758	442,762	33,051	409,711
大和村	10	2	8	88	x	x	20,783	x	x
協和村	13	10	3	43	24	19	11,924	8,805	3,119
結城郡	187	122	65	953	293	660	366,131	64,494	301,637
八千代村	53	51	2	121	x	x	18,972	x	x
千代川村	21	16	5	103	43	60	24,575	4,579	19,996
石下町	113	55	58	729	144	585	322,784	48,064	274,520
猿島郡	263	227	36	864	487	377	461,755	172,225	289,530
総和村	30	29	1	67	x	x	31,616	x	x
五霞村	10	9	1	20	x	x	3,652	x	x
三和村	38	32	6	129	62	67	67,156	12,046	55,110
富里村	13	13	—	36	36	—	14,720	14,720	—
香掛町	26	19	7	105	49	56	38,731	4,964	33,767
岩井町	77	70	7	232	146	86	93,552	31,202	64,330
境町	69	55	14	275	123	152	210,348	84,573	125,775
北相馬郡	140	102	38	848	218	630	635,198	78,040	557,158
菅生村	11	11	—	19	19	—	3,761	3,761	—
内守谷村	1	1	—	x	x	—	x	x	—
守谷町	31	29	2	88	x	x	36,851	x	x
取手町	66	39	27	580	84	496	526,561	33,108	493,453
藤代町	16	8	8	124	20	104	57,324	7,867	49,457
利根町	15	14	1	34	x	x	10,091	x	x

毎月人口世帯異

1. 世帯異動状況

	前月末	増		加		減		少		本月末
		入		その他	計	出		その他	計	
		県外から	県内から			県外へ	県内へ			
世帯数	385,454	232	391	132	755	261	277	67	605	385,604
前月との増減比	—	93.9	98.0	36.1	74.6	105.7	89.4	82.7	94.8	100.04

前月=100

2. 人口異動状況

	前月末	増		加		減		少		本月末		
		出生	入		その他	計	死亡	出			その他	計
			県外から	県内から				県外へ	県内へ			
男	1,010,991	1,384	1,819	1,421	157	4,781	791	1,675	1,362	105	3,933	1,011,839
女	1,067,292	1,436	940	1,382	71	3,829	642	1,347	1,342	54	3,385	1,067,736
計	2,078,283	2,820	2,759	2,803	228	8,610	1,433	3,022	2,704	159	7,318	2,079,575
前月との増減比	—	92.8	92.8	87.0	73.8	90.3	112.3	91.5	77.9	43.3	88.2	100.06

前月=100

3. 県外からの転入者内訳

従前の居住地	転入者数	割合
東京都	978	35.4%
埼玉県	82	3.0
神奈川県	131	4.8
千葉県	109	4.0
栃木県	105	3.8
群馬県	56	2.0
福島県	274	9.9
その他の府県	1,024	37.1
合計	2,759	100

4. 県外転出者内訳

転出先の居住地	転出者数	割合
東京都	1,742	57.6%
埼玉県	118	3.9
神奈川県	253	8.4
千葉県	159	5.3
栃木県	101	3.3
群馬県	29	1.0
福島県	172	5.7
その他の府県	448	14.8
合計	3,022	100

5. 市町村別世帯数及び人口(11月末現在)

市町村名	世帯数	人口	市町村名	世帯数	人口	市町村名	世帯数	人口
市部計	160,505	801,816	竜ヶ崎市	6,618	34,185	郡部計	225,099	1,277,759
水戸市	24,160	111,950	那珂湊市	6,868	33,393	東茨城郡	28,504	154,839
日立市	28,824	138,997	下妻市	5,592	32,135	常澄村	1,785	10,449
土浦市	15,856	72,325	水海道市	7,284	40,003	石崎村	1,084	6,173
古河市	8,277	40,884	常陸太田市	7,697	39,641	赤塚村	1,908	10,086
石岡市	7,273	36,349	勝田市	7,182	37,005	茨城町	4,459	25,505
下館市	9,630	52,885	高萩市	6,608	31,870	小川町	3,012	16,720
結城市	6,921	39,716	北茨城市	11,715	60,478	美野里村	2,704	15,405

()内は、町村合併による異動世帯数及び人口

動 調 査 結 果 速 報

(昭和31年11月分)

市町村名	世帯数	人 口	市町村名	世帯数	人 口	市町村名	世帯数	人 口			
内原村	2,268	13,404	銚田町	5,289	29,956	筑波郡	17,187	97,822			
飯富村	795	4,227	大洋村	1,876	10,897						
常北町	2,400	12,698	大野村	1,815	11,350						
桂村	1,916	9,797	鹿島町	2,790	16,417						
御前山村	1,489	8,053	神栖村	2,861	17,193						
大洗町	4,684	22,322	波崎町	4,314	24,921						
西茨城郡	17,425	96,511	行方郡	13,069	75,614				谷田部町	3,955	22,203
笠間町	4,897	26,137	麻生町	3,607	21,370				伊奈村	2,150	12,769
友部町	3,448	19,275	牛堀町	1,238	7,238				谷和原村	2,012	11,732
岩間町	2,507	14,499	潮来町	3,180	18,088				豊里町	2,120	12,303
七会村	759	4,392	北浦村	2,183	13,057	菅間村	389	2,408			
稻田町	1,425	7,723	玉造町	2,861	15,861	筑波町	4,375	24,017			
岩瀬町	4,389	24,485	稲敷郡	20,762	115,525	大穂町	2,186	12,390			
那珂郡	20,415	112,136	江戸崎町	2,526	13,627	眞壁郡	13,862	81,815			
東海村	1,845	11,665	美浦村	1,723	9,915	関城町	2,631	15,750			
那珂町	5,903	31,586	阿見町	4,169	21,893	明野町	3,086	18,726			
国田村	656	3,642	莖崎村	1,075	6,509	大和村	1,423	8,711			
瓜連町	1,340	6,852	牛久町	2,929	15,864	眞壁町	4,218	23,588			
大宮町	4,907	26,270	新利根村	1,827	10,049	協和村	2,504	15,040			
山方町	2,621	14,134	大須賀村	630	3,700	結城郡	9,401	57,024			
美和村	1,558	9,125	桜川村	1,681	9,435	八千代村	4,219	26,328			
岩川村	1,585	8,862	河内村	1,482	8,840	千代川村	1,621	9,365			
久慈郡	14,519	79,982	金江津村	903	5,221	石下町	3,561	21,331			
金砂郷村	2,832	15,875	東村	1,817	10,472	猿島郡	20,471	126,477			
水府村	2,336	12,392	新治郡	15,840	89,666	総和村	3,277	20,894			
星美村	1,462	8,353	出島村	3,517	19,843	五霞村	1,519	9,981			
大子町	7,889	43,362	玉里村	975	5,574	三和村	3,223	20,606			
多賀郡	2,153	10,871	八郷町	5,740	33,237	猿島町	2,490	15,786			
十王町	2,153	10,871	千代田村	2,090	12,264	岩井町	5,900	35,483			
鹿島郡	20,934	122,963	新治村	1,687	9,130	境町	4,062	23,727			
旭村	1,989	12,229	桜村	1,831	9,618	北相馬郡	10,557	56,514			
						守谷町	2,167	12,142			
						取手町	4,298	21,489			
						藤代町	2,334	13,052			
						利根町	1,758	9,831			

11月における農村物価賃金の動き

今月の農村物価は全般的に見てやや微騰した。

農林生産物においては前月に対して約 0.9%微落し農家、購入品の購入価格は生産物に反して約 1.7%の上昇を示した更に前年同月の物価水準と比べると、生産物は米類及び豆類、胡麻、なたね等の値下りにより約 2.9%の低下を見たが購入価格においては家畜類、農機具の一部上昇により約 7.3%と大巾な値上りを示した。

今月の農林生産物価の特徴的なものは穀類、雑穀類、

豆類等が前月に引続き下落し目立つものとしては蔬菜類が全体に値下りした。上昇を示したものは畜産物類及び林産物等である。これは季節的に見て需要期のためと思われる。

農家購入品の購入価格は目立つた動きはみられないが家畜類及び資材類、農用被服類が前月に引き続き値上しその他の各品目については殆んど動きはない。

茨城県農村物価賃金調査結果

(昭和31年11月15日現在)

(1)農家生産物の販売価格

調査品目						調査品目						
調査品目	単位	平均価格	前月との比較	前月を100とすれば	調査品目	単位	平均価格	前月との比較	前月を100とすれば			
穀類	粳米	1升	104	円 1	101	葉及農産加工品類	稲わら	1×	10	円 1	99	
	糯米	〃	112	1	100		甘藷生切干	〃	—	—	—	
	大麦	〃	55	△ 2	96		〃 蒸 〃	〃	—	—	—	
	小麦	〃	46	△ 1	97		〃 繩	〃	44	△ 2	95	
	裸麦	〃	54	—	100		〃 叭	枚	49	3	107	
	小麦粉	1×	179	—	100		〃 苳	〃	73	6	108	
雑穀類	とうもろこし	1升	40	△ 3	93	林産物類	薪	束	40	1	102	
	あわ	〃	66	—	100		木炭	貫	431	5	101	
	ひえき	〃	—	—	—		蔬菜類	きうり	貫	—	—	—
	もろこし	〃	50	△ 4	93			しろり	〃	—	—	—
	そば粉	1×	224	△ 6	97			かぼちや	〃	—	—	—
	豆類	大豆	1升	83	1			101	すいか	〃	—	—
あづき		〃	129	3	102	なす		〃	—	—	—	
えんどう		〃	97	△ 5	95	とまと		〃	—	—	—	
そら豆		〃	59	△ 2	97	だいこん	〃	28	△ 2	93		
いんげん豆		〃	95	△ 8	92	かぶ	〃	41	△ 3	93		
落花生		〃	148	△ 2	98	にんじん	〃	71	△ 2	97		
胡麻	〃	127	4	103	ごぼう	〃	77	△ 5	94			
なたね	〃	72	2	102	さといも	〃	69	△ 6	72			
藷類	甘馬鈴	1×	25	△ 4	86	ねぎ	〃	63	—	100		
	薯蓣	〃	49	3	107	たまねぎ	〃	62	2	103		
蚕繭類	繭	〃	1,504	△ 88	94	キャベツ	〃	52	△ 9	85		
	畜産物類	肉牛	生体 1×	581	36	106	結球白菜	〃	39	△ 26	60	
		〃 豚	〃	621	40	106	非結球白菜	〃	25	△ 13	66	
		〃 鶏	〃	556	33	106	ほうれん草	〃	76	△ 9	89	
		〃 牛乳	1升	54	2	103						
〃 鶏卵	1ヶ	11	△ 1	91								

(2) 農家購入品の購入価格

調査品目	単位	平均価格	前月との 比	前月を 100と すれば	調査品目	単位	平均価格	前月との 比	前月を 100と すれば		
肥料類	硫酸安	1ノ	円 85	円 1	100	農薬類	石硫黄合剤	18立	円 644	円 9	98
	硝酸安	//	111	△ 1	100		DDT	500g	165	—	100
	石灰窒素	//	84	—	100		ウスブルン	//	434	6	101
	過石	//	55	—	100		2-4-D	50g	117	△ 1	100
	硫酸加里	//	111	1	100		生石灰	4ノ	320	—	100
	塩化加里	//	89	3	103						
	菜種粕	//	119	2	101						
魚類	魚粕	//	191	4	102	農具類	くわ	1丁	752	△ 20	97
	消石灰	//	16	—	100		かま	//	119	△ 3	97
							すき	1台	4,529	117	102
飼料類	ふすま	//	92	—	100		噴霧機	//	3,472	627	116
	米糠	//	82	—	100		水田除草機	//	752	△ 30	96
	麦糠	//	62	△ 5	92		人力脱穀機	//	5,969	△ 6	100
家畜類	役牛	1頭	40,381	1,357	103		資材類	動力	//	20,000	△ 57
	役馬	//	33,900	515	101	電動機		//	16,529	△ 314	98
	仔豚	//	3,347	202	106	釘		100	38	3	108
	仔兔	//	64	△ 1	98	針金		//	40	▷ 2	95
初生雛	1羽	81	2	102	トタン	1枚		396	15	103	
農薬類	石油	1升	44	1	102	角材		1石	3,738	△ 20	100
	硫酸銅	500g	84	2	102	板		1坪	519	62	113
	硫酸ニコチン	//	755	18	102	農用被服類	紺木綿	1反	472	30	106
	除虫菊粉末	//	231	△ 1	100		作業衣上下	1着	827	30	103
硫酸鉛	//	134	2	101	地下足袋		1足	267	5	101	
					ゴム長靴		//	618	△ 8	98	

(3) 農村賃金及び農業用料金

農業労働賃金 (臨時雇1日当)					山林労働賃金(男1日)	
晴なし	一食付	二食付	三食付	四食付	伐木	木材運搬
男 円 360	円 318	円 278	円 257	円 1	円 335	円 400
女 円 314	円 271	円 231	円 222	円 1	円 1	円 1
農業賃料				本月の主な農作業		
租 招 賃	牛馬耕賃	牛賃借料	馬賃借料	水陸稲、脱穀調整		
支米一俵当	荒起整地	一日当	一日当			
49円	556円	496円	561円			

新 市 町

あみ 阿見町

1. 沿革

この町は土浦市からバスで15分、稲敷郡の西北隅に位し、東西は美浦村、江戸崎町に、南西は牛久町と土浦市に接し、北部は霞ヶ浦に面し、遙かに紫峰筑波を眺望できる。昔この地方は、旗本の丹羽氏、久長氏、伊達氏などの領地であったが廃藩置県後は宮谷県、新治県に属し、明治8年になって茨城県信太郎の管轄に入り、さらに明治22年の町村制実施に伴って稲敷郡に所属することになった。さらに昭和20年5月27日には単独で町制を施行し、30年4月には隣接の君賀、朝日の2カ村と舟島村の一部とそれぞれ合併して、面積37.21平方千、人口21,892人(男10,805、女11,087)、世帯数4,168を有することになった。(昭和31年11月30日毎月人口調査)ここは戦時中霞ヶ浦海軍航空隊、土浦海軍航空隊、第一海軍航空隊などが相次いで設置され、世界的軍都の偉観を呈したが、数次にのぼる大空襲によって軍事施設は無論、市街地は全く廃墟と化し人口も激減して町民は全くの虚脱状態に陥りつた。しかし戦後次第に生活も安定し、戦災も復興も軌道に乗り、27年6月には陸上自衛隊武器学校が設置され、さらに武器補給処、陸幕航空隊、燃料補給処が相次いで駐屯することになったが、他面民間事業も次第に勃興し、旧軍事施設を利用する大工場が操業を開始し、教育の殿堂茨城大学農学部や霞ヶ浦高校も設置され、今や産業、教育軍事上の特殊な都市形態を備えることになった。人口増加も毎年2,000人を上回り、自衛隊の科学技術研究所の誘致や大規模な土地改良事業、都市計画事業、公営住宅建設の推進と相まって、新町の飛躍的發展が期待される。

2. 産 業

まず農業面を見ると、農家戸数2,567、農家人口14,940(男7,390、女7,550)、耕地面積2,841町(田901町、畑1,821町、樹園地116町)果樹園9町、茶園4町、桑園93町その他10町)、山林55町を有し、(昭和31年8月夏期調査)中でもさつまいもは440町にのぼり、当町にある酒造会社の焼酎や合成酒の原料として大きな役割を果している。またすいかは51町、れんこん18町余の作付面積を有し、霞ヶ浦沿岸地帯や深田地帯の特用作物として将来が期待される。町としてもれんこん組合やすいか組合、ぶどう組合などの育成と増産奨励に努め、農家の現金収入の増加を計っている由。

次に畜産面をみると、乳牛71頭、役牛1,486頭、馬61頭、めん羊277頭、山羊309頭、豚1,526頭、兎901頭、にわとり21,380羽、あひる13羽を飼養しており(昭和31年2月冬期調査)、特にめん羊組合や養豚組合も部落単位に結成され、今後の積極的活動と経営の改善による成果が注目されている。また300町を有する旧飛行場跡へは旧軍人や土地関係農民117戸が入植しており、すでに1戸当り1.2町の経営面積を持つて立派な実績を取っている。町としても国や県の補助2,600万円を得て、霞ヶ浦からの用水

4. 財 政

昭和31年度一般会計歳入歳出予算 (単位円)

歳 入	町 税	地 方 公 企 業 及 び 使 用 料 及 国 庫 庫 支 出 金	地 方 公 企 業 及 び 財 産 収 入	使 用 料 及 手 数 料	国 庫 支 出 金	県 支 出 金	寄 付 金	繰 越 金	雑 収 入	町 債	合 計			
入	35,003,187	10,993,000	225,835	1,059,830	4,559,700	626,150	300	200	1,427,200	100	53,895,472			
歳 出	議 会 費	役 場 費	警 消 防 費	土 木 費	教 育 費	社 会 及 び 勞 働 衛 生 費	保 健 産 業 計 画 費	都 市 財 産 統 計 選 挙 費	公 債 費	失 業 諸 支 出 金	予 備 費	合 計		
出	1,021,700	16,087,845	2,453,400	12,865,120	8,817,000	1,680,700	1,241,300	3,284,130	250,047	326,280	1,463,560	4,493,938	232,439	53,895,472

路建設計画を進めて水田の造成や畑地かんがいによる旱害防止のために重点的施策を講じている。優良農機具の普及状況を見ると、電動機750台、石油発動機290台、ガーデントラクター1台、動力脱穀機1,010台、足踏脱穀機338台、動力用収り機389台、製粉機202台、精米機411台、噴霧器5台、人力用噴霧器377台、動力用撒粉機4台、製糞機6台、製繩機181台、足踏製繩機934台、カルチベーター38台、畜力用水田中耕除草機30台、砕土機218台、インシレージカッター5台、畑用播種機167台、畜力用播種機41台にのぼり(昭和30年8月夏期調査)、中でも動力用噴霧器やカルチベーター、播種機などの急激な増加が目立っている。また養蚕農家は152戸で年間約8,000万の取柄高があるけれども、昔に比べると桑園の減少や製糸界の不況によって次第に衰え、その反面繭加工を副業とする農家が多くなってきた。

次に商業面を見ると、法人および常用労働者を有する個人商店18で従業者数120名、年間販売額1億759万円、常用労働者のいない個人商店33で従業者数385名、年間販売額1,872万円に達しているが(昭和31年7月商業調査)、隣の土浦市を控えているために、飲食店や食料品小売業を除いては今後の発展は望めないだろう。

次に工業面をみると、事業所数22(従業者3人以下9、4人以上13)で従業者数1,081名、年間製造出荷額9億200万円余にのぼり(昭和30年12月工業調査)、中でも銃弾製造業や酒造業、アセチリン、酸業の製造業、水飴、澱粉製造業などの大工場がその生産増加に拍車をかけており、この町の工業的發展が期待される。

3. 教育文化

ここには茨大農学部(学生男186名)や私立高校1(生徒数男257)をはじめ、小学校6(生徒数男1,536、女1,433)、中学校4(男685、女732)があつて、土浦に次ぎこの地方の教育上の中心地となつている。町としても教育施設の拡充強化に努めるとともに保育所(収容人員男34、女31)や授産所(定員女20名)を直営しており、母子家庭の福祉増進を計っている。また公民館を中心に青年、婦人の社会教育事業の強化に努め、優良図書を整備や日曜学校の開設、生活改善、料理講習、衣服改良、冠婚葬祭の簡素化、バザーなどの諸事業を推進して町民全体の福祉増進のため大きな成果を収めている由。

特にこの町としては住民税の軽減と給与所得者や事業所などの特別徴収の増加に努め、また他面部落単位に納税組合37を結成し、部落振興策の推進と相まって完納の奨励を計り、納税率も90%まで実現できそうである。交通網も幹線道路の改修、整備と相まって、国鉄バス、民間バスが町内を縦横に走るようになり、高台の町有地を開放して県営住宅52戸、町営住宅168戸をすでに建設し、町民の住宅難の解消に努力している由。また国民健康保険組合もすでに阿見、君原地区において実施しており間もなく全町加入を実現できそうである。ここには東京医科大学霞ヶ浦病院があつて結核治療のため大きな役割を果しているそうである。(写真は30頁掲載)

村の横顔

友部町

1. 沿革

この町は西茨城郡の東部に位し、水戸から汽車で約30分、丁度常磐線と水戸線の間にあるが、この地方は昔天正18年、戸義利氏が六万七千石の藩主となり、筑波の表裏28館の旗頭となつて威名を遠近に振い、その全盛時代を飾つた。後世徳川頼房の五子松平頼雄が、戸一萬石の藩主として封ぜられたが、明治維新の廃藩置県となり、明治11年茨城郡が東西に分れ、22年には戸部町が誕生したのである。また北川根地区は松平藩主と旗本安藤十郎の領地にあつて維新後は一時若森県に属し、大原地区は徳川時代には旗本領と笠間藩主牧野氏の領地となつていた。また昔からこの地方は江戸街道と笠間街道の分岐点にあつて宿場が発達し、政治上、交通上も非常に重要視されたが、鉄道開通後も地理的、土地的条件から次第に都市様相を形式するようになったのである。戦時中は農村振興と満蒙開拓関係の幹部養成を行った日本国民高等学校や筑波航空隊が設置されたが、戦後は開拓農家が入植している。昭和30年11月15日には戸部町、北川根、大原村が合体してその名も新しく友部町が生まれ、さらに同年3月31日には鯉沢村の一部を編入して今や面積 58.49平方町、人口19,239人(男9,491、女9,798)、世帯数3,446を有し(昭和31年12月31日毎月人口調査)、都市計画事業の推進や弁天池の観光施設の拡充と相まつて、さらに大きく発展するものと思われる。

2. 産業

まず農業面をみると、農家戸数2,165、農家人口13,039人(男6,271、女6,768)、耕地面積2,141町(田827町、畑1,169町、樹園地145町(果樹園26町、桑園102町、その他17町)、山林1,180町を有している。中でもさつまいも209町、らつかせい123町、たばこ56町の作付面積にのぼり、畑作地帯の大きな収入源となつている。また昔からくりの栽培と速成きうりの栽培が非常に盛んで、くりは毎年3万メ近くの生産をあげ、きうりの速成栽培農家は約80戸で800框を有し、毎年1~4月に21万本を東京神田、水戸市場にそれぞれ出荷し大変好評を博している由。また北川根地区では最近生花用のきく栽培が行われたり、優良かきの栽培に成功し今後の増産が期待される。土地改良事業も土地交換分合や暗渠排水などに重点を置いて、すでに交換分合89町、排水62町が完了しており、さらに弁天池の改修工事(工費800万円)や山の内温水路溜池(工費370万円)のダム建設なども完成して、水田造成や水稲の増産計画が進められている。

次に畜産面をみると、乳牛189頭、役牛1,187頭、馬161頭、めん羊116頭、山羊302頭、豚329頭、兎445頭、にわとり10,866羽、あひる6羽を飼養しているが(昭和31年2月冬期調査)、高度集約酪農地帯の指定、協同乳業組合の結成と相まつて、展示牧野の設定、牛乳の共同出荷が促進され、酪農経営農家が次第に多くなり、近い将来には「乳の流るる郷土」が作り上げられることだろう。特に弁天池は国有林の風光の美しい地区にあつて県立笠間公

園の区域に入り、道路の改修やポート、ベンチの設置、鯉の放魚によつて観光地としても将来有望視される。またここには養蚕農家が375戸あつて年間取繭高 15,174メに達し、農家現金収入の大きな役割を果している。

次に農機具の普及状況を見ると、電動機183台、石油発動機 223台、ガーデントラクター1台、動力用脱穀機 335台、足踏脱穀機 1,269台、動力用穀すり機174台、製粉機82台、精米機(麦)機234台、噴霧器5台、人力用噴霧器90台、動力撒粉機7台、製蕪機3台、製繩機61台、足踏製繩機651台、カルチベーター146台、畜力用水田中耕除草機20台、砕土機429台、インシレージャクター16台、畑用播種機 100台にのぼつている(昭和30年8月夏期調査)。なお開拓部落は旧飛行場跡と石倉、星山地区に100戸入植しており、殆ど酪農を中心とした畑作経営によつて入植しているが、最近星山地区を除いて全部電気も入つている由。

次に商業面をみると、法人および常用労働者を有する個人商店が34、従業者数153名、年間販売額2億7,355万円、常用労働者のいない個人商店が237、従業者数406名、年間販売額 1,926万円余にのぼり(昭和31年7月商業調査)、特に友部駅前地区を中心にして、食料や衣料品小売業が多くなつている。また工業面をみると、事業所数33(従業者5人以下13、4人以上20)あつて、従業者数 305名、年間製造出荷額1億6千万円を上回つているが、中でも精麦、押麦工場や銃砲製造業、活性炭製造業、光学用機具製造業、製材業、紡績工場などが目立っている。またここには専売公社の葉たばこ再乾燥工場がある。

3. 教育文化

ここには小学校5、中学校3あつて、小学児童2,746名(男1,393、女1,353)、中学生徒1,322名(男668、女654)を有し、学校施設の拡充強化に努めている。また公民館活動は各地区ごとに活発で、優良図書閲覧、貸出や青年婦人団体を中心に新生活運動の大きな推進力となつている由。祭礼日の統一化や七五三の合同祝賀祭や婦人の貯蓄活動なども次第に徹底し、大きな成果を収めたそうである。旧7月の七夕祭は商店街町を中心に大規模に行われ近郷近からの老若男女が大変にぎわい、町民運動会とともに、町民慰安の一翼を担つている。友部駅前を中心に都市計画事業が昭和27年から計画され、28年以來の重要幹線道路(幅員11m、長さ855m)もすでに完成してよいよ区画整理に着手しており、将来は全地区を市街地として発展させようとしている。公営住宅も県営が20戸、建売19戸が完成し、32年には町営住宅20戸を建設する由。この町では昔から全町に国民健康保険組合が結成され、住民の医療福祉のために活躍しているがさらに運営方法の改善合理化を計ろうとしている。ここには近代的設備を誇る県立結核療養所もある。また納税組合は205にのぼつて今年度の納税率は実に93%に達し、水戸支庁管内でも有数の成績を収めている由。この地方には昔から神社、寺院が多く、中でも戸部家、家政の墓をはじめ、唯心寺、竜穩院、養福寺のお葉つき銀杏、北山不動尊、弁天池、小原神社、天然記念物の天王松などは有名である。(写真は30頁掲載)

4. 財政

昭和31年度一般会計歳入歳出予算 (単位円)

歳入	地方公企業及び使用料及国庫										歳入	繰越金	雑収入	町債	合計
	町税	地交付税	財産収入	入	手	数	料	支	出	金					
32,197,225	10,292,000	1,014,348	269,600	1,277,241	1,214,099	634,852	1,258,451	935,311	954,581	250,047,710					
歳出	社会及保健産業										歳出	繰越金	雑収入	町債	合計
	議会費	役場費	警消防費	土木費	教育費	社会及保健産業施設費	労働衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費					
1,519,467	16,435,846	4,242,430	3,042,600	9,472,603	789,080	973,940	5,507,677	2,492,948	194,483	318,380	1,434,952	3,585,480	37,824	50,047,710	

本 県 に お け る 年 令 階 層

県衛生部医薬務課が昨年公表したところの昭和29年における本県の年齢階級別死亡者数をみると、60～79才の中枢神経系の血管損傷によるものが2,421名で第1位を占め、次におもなものは60～79才の心臓疾患によるもの1,135名、80～99才の老衰によるもの1,103名、60～79才の老衰1,070名、60～79才の悪性新生物によるもの925名、1才未満の乳幼児の

	総 数			0		1		2		3		4		5～9		10～14		15～19	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総 数	19,907	10,366	9,541	1,439	1,129	203	190	205	189	177	153	147	130	274	276	98	89	135	116
その他の結核	144	78	66	1	1	2	4	2	3	2	3	—	—	2	3	5	2	7	5
呼吸器系の結核	760	441	319	2	2	—	1	—	3	2	—	2	—	4	3	1	2	18	16
梅毒及びその続発症	46	33	13	3	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
腸チフス	3	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
パラチフス	8	4	4	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—
赤痢	432	207	225	1	—	11	10	31	31	46	38	40	47	60	77	9	7	1	3
猩紅熱	4	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	1	—	—
ジフテリア	26	14	12	—	—	2	—	3	5	1	—	2	2	6	5	—	—	—	—
百日咳	88	40	48	23	23	6	11	4	4	2	5	1	2	3	3	—	—	—	—
髄膜炎菌感染	10	4	6	2	—	—	1	—	1	—	—	1	1	—	—	—	1	—	1
ら い	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
破傷風	66	41	25	22	13	—	1	1	—	—	1	1	1	2	—	2	1	1	1
急性灰白髄炎	15	8	7	1	2	—	1	2	2	2	—	—	1	2	1	—	—	—	—
日本脳炎	20	11	9	—	—	—	—	—	—	1	1	3	—	4	4	—	1	2	1
痘瘡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ましん	63	23	40	7	12	8	14	—	5	3	3	3	4	2	1	—	—	—	1
発疹チフス及びその他のリケツチア病	4	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
マラリア	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
悪性新生物	1,699	912	787	—	—	—	1	2	—	—	1	—	—	5	2	—	1	5	4
糖尿病	32	13	19	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	—	—
脚気	28	15	13	8	9	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
中枢神経系の血管損傷	3,640	1,929	1,711	4	—	—	—	—	—	2	—	1	1	3	—	3	3	2	1
髄膜炎(髄膜炎菌性及び結核性を除く)	68	35	33	3	8	4	1	4	—	—	3	1	3	3	2	2	1	2	1
心臓の疾患	2,232	1,147	1,085	34	25	17	3	11	4	8	9	3	3	16	26	8	18	19	16

別、死因別、死亡者数調べ

(昭和29年)

先天性弱質によるもの916名、同じく肺炎によるもの522名と続いている。そして結核や赤痢などの伝染病による死亡者が急激に減少したことが特に目立っている。

20~24		25~29		30~34		35~39		40~44		45~49		50~54		55~59		60~79		80~99		100以上		不詳		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
217	197	222	216	213	223	208	250	239	235	324	275	440	369	736	498	4,204	3,584	876	1,417	5	3	4	2	
5	8	7	6	2	9	9	8	6	5	6	I	I	I	4	—	16	7	I	—	—	—	—	—	
48	42	60	61	57	56	43	32	37	19	32	20	33	23	29	11	70	28	2	—	—	—	—	I	
I	I	2	I	2	2	3	I	3	—	3	2	6	2	4	I	6	I	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	I	I	—	—	I	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	I	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	I	—	I	I	—	I	6	10	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	I	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	I	—	—	I	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	I	—	2	—	2	3	—	—	—	I	2	I	3	I	2	I	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	I	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	I	I	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	I	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	I	—	I	—	—	—	—	—	—	I	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	I	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
I	6	3	10	16	14	16	31	31	47	48	71	70	82	138	113	549	376	28	28	—	—	—	—	—
—	I	2	—	—	—	I	—	2	I	—	I	—	—	3	I	3	13	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	I	—	I	—	—	—	—	2	—	I	—	I	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
5	2	3	4	2	3	12	14	24	28	63	56	129	107	216	154	1,294	1,127	165	211	I	—	—	—	—
2	—	I	I	2	4	I	—	—	—	I	I	I	—	2	2	6	6	—	—	—	—	—	—	—
29	24	28	29	26	34	27	45	27	50	46	35	58	47	103	67	620	515	67	135	—	—	—	—	—

	総 数		0		1		2		3		4		5~9		10~14		15~19			
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
インフルエンザ	7	5	2	3	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
肺 炎	1,198	615	583	284	238	47	55	40	34	23	15	14	20	22	29	8	4	6	3	
気 管 支 炎	522	311	211	85	60	16	11	6	6	3	1	4	3	4	5	—	—	—	3	
胸膜炎(結核性を除く)	34	20	14	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	1	—	—	—	—	
虫 垂 炎	24	10	14	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	1	1	—	1	—	
胃及び十二指腸の潰瘍	600	382	218	—	—	2	—	2	4	2	—	3	1	—	3	2	4	3	1	
下痢腸炎及腸潰瘍(2才未満)	190	106	84	78	55	28	29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
下痢腸炎及腸潰瘍(2才以上)	564	256	308	—	—	—	—	37	43	32	35	36	26	39	42	8	5	2	4	
腎炎及びネフローゼ	731	335	396	1	4	3	—	6	3	4	3	6	2	14	10	5	8	6	8	
分娩並に妊娠分娩及び産褥の合併症	70	—	70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
先天性奇型	33	16	17	15	14	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	
出生児の損傷	18	15	3	15	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
先天性弱質	929	512	417	508	408	2	5	—	2	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
早 産	210	108	102	108	102	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
不詳の病名	23	13	10	6	3	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	
老 衰	2,187	878	1,309	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
頓死(原因不明)	3	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
発見死体(原因不明)	8	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
不明の原因	41	32	9	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	3	1	2	—	—	—	
不慮の事故中毒及び暴力	551	424	127	19	12	19	9	30	11	12	8	14	5	42	14	25	4	18	3	
自殺及自傷	329	186	143	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	12
他人の加害による傷害及び他殺	60	43	17	1	—	—	—	—	—	1	1	1	—	3	1	2	1	7	2	
戦争行為による傷害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
その他の全死因	2,186	1,128	1,058	204	132	32	29	24	28	28	23	11	8	29	38	14	22	19	29	

(資料) 県衛生部医薬務課

【続】

20~24		25~29		30~34		35~39		40~44		45~49		50~54		55~59		60~79		80~99		100以上		不詳	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—
5	14	3	8	8	5	3	3	4	5	4	4	7	4	13	13	101	95	23	34	—	—	—	—
1	1	1	1	1	1	1	2	3	1	1	2	1	2	16	5	136	72	32	35	—	—	—	—
—	1	—	2	1	2	2	2	2	—	—	1	2	1	3	—	9	3	—	—	—	—	—	—
1	3	1	1	1	1	—	—	—	2	—	—	—	1	—	2	3	2	—	1	—	—	—	—
4	4	11	2	4	4	11	7	19	5	19	4	25	13	49	18	203	121	23	27	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	3	3	3	1	2	1	4	6	4	2	5	2	2	8	12	60	77	17	41	—	—	—	—
10	7	7	11	6	11	8	18	8	11	12	13	16	16	29	29	156	171	38	71	—	—	—	—
—	20	—	16	—	11	—	20	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	1	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	3	2	1	2	—	1	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	9	478	592	397	706	1	2	—
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
1	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	3	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—
—	1	6	—	—	—	1	1	3	—	1	—	—	—	2	—	2	2	6	2	3	1	1	—
37	8	27	5	26	1	20	6	18	5	26	6	24	2	15	2	46	20	6	5	—	—	—	1
30	23	24	17	12	11	11	13	9	5	7	8	13	5	11	6	46	37	5	5	—	—	2	1
4	1	4	—	3	2	3	4	3	2	3	—	—	—	3	—	4	2	1	1	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30	24	26	35	36	47	29	35	34	41	47	42	45	59	77	49	379	303	64	114	—	—	—	—

生産動態調査

織維部門

(昭和31年12月度分)

(調査企画課商工調査係)

概況

織物

綿織物の生産は前月度の約13%増で、本年度最高の生産高を記録した。

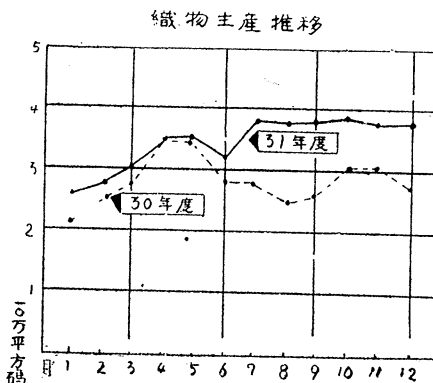
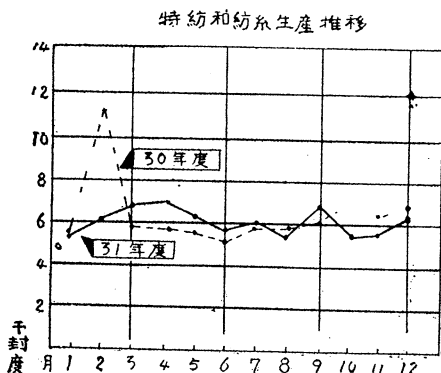
絹織物は春向の生産を始めたので前月度より約16%増加、引渡高は約56%増加となった。

メリヤス製品

メリヤス製品の生産は前月度の約11%増、引渡高は約24%増で春向製品の需要が目立つ。

縫製品

学校服、作業服、制服、中衣肌着の生産が増加し、作業服、制服の引渡高増加が顕著である。



(1) 対象工場数

業種	特紡和紡糸	綿織物	絹織物	メリヤス製品	雑織維製品	縫製品	製綿
対象	7	17	315	10	3	18	9
操業	7	17	314	10	3	13	9
休止	—	—	1	—	—	5	—

2) 生産および出荷状況

部門別	品目別	単位	生産高		引渡高		月度末在庫高	
			当月度	前月100対比	当月度	前月100対比	当月度	前月100対比
紡	計	封度	63,460	106	61,860	104	5,946	137
	落綿糸	//	11,000	110	10,000	100	1,200	600
	特紡糸	//	43,800	106	43,200	104	2,325	134
	和紡糸	//	8,660	104	8,660	104	2,421	100
績	織物計	平方碼	364,407	103	313,533	96	245,485	127
	綿織物	//	210,643	113	197,831	107	117,361	113
	絹織物	//	57,302	114	37,508	154	67,404	142
	絹紡織物	//	5,423	150	5,707	164	4,121	94
織	和紡織物	//	61,178	77	53,472	68	33,772	129
	特紡織物	//	—	—	—	—	—	—
	スフ織物	//	1,351	—	1,238	—	113	—
	人絹織物	//	—	—	—	—	—	—
物	合成繊維織物	//	28,510	64	17,777	49	22,714	189
	メリヤス生地	度封	9,075	66	11,675	115	5,847	69
	製品計	打	10,166	111	12,603	124	4,576	79
	肌着	//	2,891	99	2,984	102	582	86
メリヤス製品	外衣	//	260	195	260	195	—	—
	手袋	//	5,613	115	7,439	132	1,984	79
	靴下	//	1,402	117	1,920	132	2,010	78
	計	封度	1,932	85	2,592	82	2,370	92
雑繊維製品	漁網	//	502	80	695	66	1,037	100
	漁具糸	//	1,430	86	1,897	81	1,333	88
	学校服	着	3,065	200	3,144	224	1,025	93
縫製	作業服	//	8,649	242	9,739	378	157	113
	制服	//	2,735	390	2,735	395	—	—
	乳児および子供服	//	956	65	1,256	101	524	72
	既成服	//	4,195	60	4,577	65	552	59
品	中衣・肌衣	点	19,651	184	19,023	185	32,787	102
	綿綿	封度	375,894	120	430,048	121	69,440	56

★本表は、生産動態統計調査規則に定められている繊維工場を調査対象としたものであるが、特紡糸、和紡糸以外の紡績工場および抽出調査工場は含まれていない。

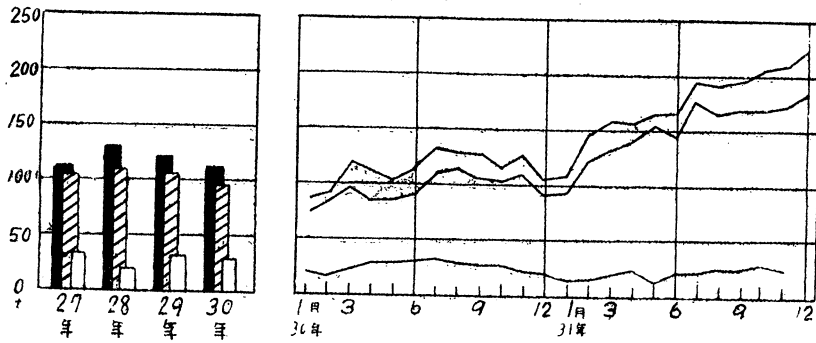
機 械 部 門

(昭和31年12月度分)

概 況

鉄鉄鑄物の生産は前月に比べ108%で今年の最高を示し出荷も同様105%と最高を記録した。
 た、これを品目別にみると産業機械器具用94%、鉄道および車輛用129%、電気通信機器用139%、日用品115%である。

鉄鉄鑄物の推移



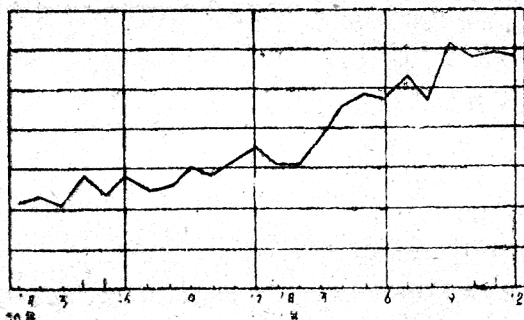
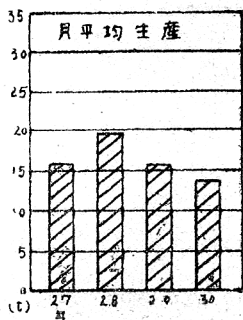
銅合金鑄物の生産は前月と全く同じで9月に次ぐ生産である。

軽合金鑄物の生産は前月より45%増という激増ぶりである。

鉄 鐵 鑄 物

区分 用途別	生 産		出 荷		自己消費	月末在庫	対象工場数 12
	重量 kg	金 額 千円	重量 kg	金 額 千円	重量 kg	重量 kg	
総 数	228,415	17,406	180,996	14,592	42,850	30,294	生産前月対比
産業機械器具用	130,622	10,353	115,999	9,366	9,489	14,404	108
維 機 械 器 具 用	—	—	—	—	—	—	出荷前月対比
鉄道および車輛用	6,847	526	6,847	526	—	—	105
電気および通信機 器用	44,317	3,700	44,317	3,700	—	—	在庫前月対比
農 水 産 機 器 用	—	—	—	—	—	—	120
港 灣 お よ び 船 舶 機 器 用	—	—	—	—	—	—	
維 機 械 器 具 用	15,762	1,017	4,562	345	11,200	—	
日 用 品	9,961	841	6,715	480	3,811	15,890	
鑄型および鑄型定 盤	18,350	734	—	—	18,350	—	
口 ー ル	—	—	—	—	—	—	
そ の 他	2,556	235	2,556	235	—	—	

銅合金鑄物の推移



銅合金鑄物

用途別	生産	
	重量 kg	金額 千円
総数	29,565	14,440
産業機械器具用	2,942	1,500
電気および通信機器用	9,417	4,197
鉄道および車輛用	372	212
港湾および船舶機器用	519	332
軸受メタル	3,019	1,772
管継手	—	—
バルブコック	13,072	6,280
建築用	20	17
日用品	—	—
その他	204	130
対象工場数	7	生産前月対比 100

軽合金鑄物

用途別	生産	
	重量 kg	金額 千円
総数	8,205	3,659
産業機械器具用	387	186
繊維機械器具用	—	—
鉄道および車輛用	1,514	983
電気および通信機器用	5,723	2,286
精密機器用	—	—
農水産機器用	—	—
日用品	—	—
その他	581	204
対象工場数	5	生産前月対比 145

※本表の工場は下記の定義にもとづいたものである。

鉄鑄物については従業員10名以上、銅合金鑄物および軽合金鑄物については従業員5名以上の工場が調査の対象である。

雑 貨 部 門

(昭和31年12月度分)

概 況

金属製がん具

今月の生産数は前月より11%下回つた。これは出荷において、国内向けは増加したが輸出向けが27%と減少した結果であり例年に見られた冬期の生産増加はなく本県におけるがん具製造業界の不振を示している。

草 靴

今月は生産において前月より8%の増加を見せたが10月度に比較すれば8%下回っており昨年に見られたような8月度を界として上昇し12月度には1,140足となったのに比べれば34%も下回っている。これは一般的に必要な数が確保されただのに加え婦人の正月における和服の影響も見のがせない一因ではないかと思われる。

漆 器

今月は生産31%出荷23%と増加し冬期生産に順調の伸びを示しながら本年最高の生産数を見せた。

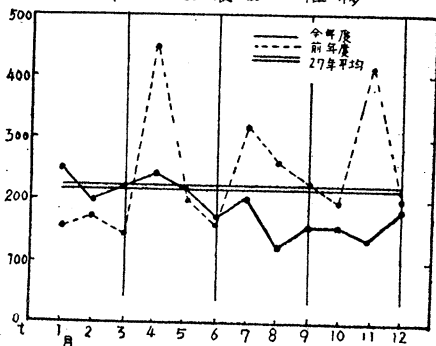
建築用コンクリートブロック

今月は生産数24,725個と前月より85%も増加したこれは春期に向い需用の増加が見込まれる結果と思われる。

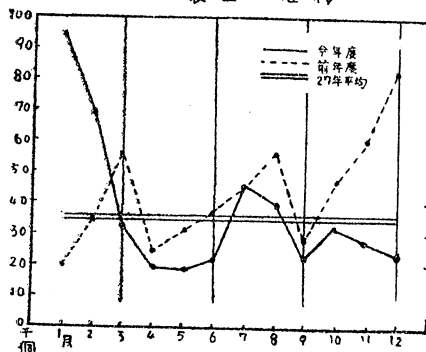
陶 磁 器

今月は生産において41%出荷において44%と増加した。これは正月をひかえた需用増加に加え農閑の影響と思われる。

陶磁器製品の推移



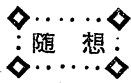
がん具製品の推移



業 種	製 品 名	区 分	単 位	生 産 数 量			出 荷 数 量						月 末 在 庫 数 量	事 業 所 数 (操業)
				数 量	前 月 対 比	金 額	国 内 向		輸 出 向					
							数 量	前 月 対 比	金 額	数 量	前 月 対 比	金 額		
	金 属 製 が ん 具		個	26,100	89	1,048	5,004	1,489	475	21,096	73	573	—	3(8)
革 靴	総 数	〃	個	750	103	1,394	754	87	1,609	—	—	—	543	5(5)
	男 子 総 革 靴	〃	個	640	105	1,156	632	85	1,337	—	—	—	286	
	婦 人 〃	〃	個	110	96	238	122	101	272	—	—	—	254	
	そ の 他 靴	〃	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	
漆 器 (木製)	総 数	個	個	2,361	131	915	2,409	123	921	—	—	—	64	12(8)
	食 器 類	〃	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	容 器 類	〃	個	732	152	100	742	157	102	—	—	—	10	
	食卓子、壁 盆 類	〃	個	1,628	122	814	1,666	112	818	—	—	—	52	
	そ の 他	〃	個	1	—	1	1	—	1	—	—	—	2	
建 築 用 コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク	総 数	個	個	24,275	185	733	27,084	173	927	—	—	—	37,136	3(8)
	A 種 基 本 型	〃	個	2,783	595	86	3,158	120	124	—	—	—	6,512	
	A 種 異 型	〃	個	280	280	10	83	26	3	—	—	—	1,754	
	B 種 基 本 型	〃	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	B 種 異 型	〃	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	C 種 基 本 型	〃	個	10,368	288	372	10,575	149	398	—	—	—	10,306	
	C 種 異 型	〃	個	566	226	20	432	161	16	—	—	—	1,321	
	帳 壁 用 ブ ロ ッ ク	個	個	10,278	116	245	12,836	239	386	—	—	—	17,243	
陶 磁 器	総 数	瓦	瓦	192,952	141	21,048	188,788	144	21,024	—	—	—	84,258	15(14)
	電 気 用 品	〃	瓦	35,177	83	13,183	35,177	—	13,183	—	—	—	—	
	特 別 高 圧 用 碍 子	〃	瓦	1,856	130	2,215	1,856	—	2,215	—	—	—	—	
	高 圧 用 碍 子	〃	瓦	3,284	100	3,683	3,284	—	3,683	—	—	—	—	
	低 圧 用 碍 子	〃	瓦	395	—	514	395	—	514	—	—	—	—	
	そ の 他	〃	瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	家 庭 用 品	〃	瓦	108,040	133	1,000	102,576	134	963	—	—	—	80,958	
衛 生 用 品	〃	瓦	44,200	553	453	45,500	569	466	—	—	—	3,100		
	そ の 他	〃	瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	200	
赤 れ ん が			個	x	—	x	x	—	x	—	—	—	x	3(1)

※対象工場数、生産数量及び出荷数量において2以下の事業所については公表を禁じられているので、金属洋食器、がらす製品は除外した。

がん具、革靴、陶磁器は5人以上の事業所、漆器、コンクリートブロック、赤れんがは全事業所である。



「新しい市町村」への途

長 島 鐘 一

本県の町村合併も最終の段階を残すだけとなり、昭和32年は愈々新市町村の建設が全体として大きな課題となる状況になってきました。市町村において、日頃統計事務に取り組んでおられる皆様方も合併後の拡大した市町村規模を統計的に把握することの苦勞を経て、統計的資料の整備も一段落し、本来の使命である統計の利用の面への関心を高めておられることと思います。

さて新市町村建設の理念と方途を具体化させるために、さきに新市町村建設促進法が公布施行され、その中で新市町村建設計画の調整ということが、建設の第一段階として取上げられることになったことは、皆様もすでに御承知のことと存じます。また、すでに本誌上にも計画調整についてふれた文も散見されている様子でありますし、計画の調整についても大部分の方はその大要を知つていただけるものと思います。あるいは計画調整の進んでいる町村では、すでに実際に仕事にたづさわつた方もおいでのことと存じます。

そこでここでは建設計画の調整をどのようにすべきかというような点を全般的に取上げることがやめにして、従来とも問題とされることの多かつた、いわゆる調査のための調査あるいは机上計画といった、特に統計の仕事をやつておられる方々の経験と知識によつて反省は正すべき点についてふれてみたいと思います。

まず、今回の建設促進法にもとづく計画調整の段階として、基礎調査、基本計画、実施計画の三段階にわけを行うこととなつていることは御承知のことと思います。そしてここで取上げようとする問題は基礎調査と基本計画に関連してくる問題であります。まづこの点を端的に表現すれば、新市町村の地域の現況を基礎的かつ科学的に調査分析し、それに基づいて、新市町村建設の基本的な構想とおおむね十年にわたる建設経営の具体的な方策を基本計画として樹立するということになります。そして第1の基礎調査に関連する問題は、戦後の数多い統計調査の実施と、統計への関心の増大にもかかわらず、真に科学的な調査への理解の不足が依然として存在することです。すなわち統計調査をその対象と調査方法、及びそれによつて得らるべき結果とその利用にわたつて全体を検討して、調査を実施するのではなく、求められた

調査表を数字によつて埋めれば事終れりとする安易な統計作成の態度が意外に強く残つていることであります。そしてまた一方ではわざわざ金と時間をかけて基礎調査などを行わなくても、自分の市町村の建設の方向や問題点位はわかつていると考えている人も少くないこともあります。そのような人は案外、自分の経験やカンが果して正しいか否かを反省することもなく、調査資料等も棚にほおり出してほこりをかぶらせておくといつたことが多いように見えます。また調査に熱意を持つ人の中には調査の実際的効果よりも統計調査自身が完成した体系化されたものとなつて、統計調査の結果自体が立派なものとも見えなければ我慢ができないというような考えで、調査の目的とズレが生じても一向に省みずに調査を楽しんでいるような人も、なきにしもあらずであります。このような調査への態度は、いづれも「調査のための調査」への危険を多分に持つており、また今後の建設経営を進めてゆくためにも感心できない考え方であると思います。そしてまた基礎調査に対するこのような考え方が基本計画の作成に当つてとられる場合には、当然に、「計画のための計画」が作成され「机上計画」が生まれてくることになる危険を持つということができましよう。

読者の皆様方の中には、今更こんな文句を聞かされる必要はないとお考えの方もかもしれませんが、それがこんな状態を卒業してしまつてからという理由であるならば大変に喜ばしいことと思います。この新市町村建設計画の調整の仕事は、単に知事との協議を了えて調整の手続きを終れば、それで終りとなるような事務的な仕事に止るものではありません。長期にわたる建設経営の構想という、自治体の基本的な経営に連なる大きな理想、自治制度の根本的な理念を実現するための一つの機会となるべき仕事であります。すなわちこの仕事を通じて自治経営への新しい意識を実現させてゆくことも大きな目的の一つであります。そのためには単に統計事務の面からだけでなく、基礎調査を行うということだけでなく、統計事務の上に培われた分析的である一面に総合的なものの見方を十分に活用されて、皆様が今後の自治経営の方となられることを念じて筆をおきます。

(筆者は総務部地方課員)



(統)(計)(用)(語)(の)(解)(説)

〔粉飾預金〕 窓口預金（ウィンドードレッシング）ともいい、銀行が期末などに特別な操作をして一時的に帳簿上の預金高をふやす一種のみせかけ預金のことである。たとえば期末最終日にA、B両銀行が互いに小切手を振出してそれぞれの当座に振込み、粉飾の上翌日は手形交換所で両小切手を決済して預金を解消させ

る方法や、貸出した金を預金に回させる両建預金の方法もある。

〔無償株〕 会社の固定資産を従来の低い帳簿価格から評定し直し（再評価）、それで生れてきた資本金の増加分（再評価益金）を株式として株主に無償で交付するものである。

編 集 室

◎神武天皇以来の好景気といわれるような平和で幸福の中に、私たちは明るい1957年の初春を迎え、心機一転、ここに心身を清めて新しい希望に満ち溢れる一年の門出をしたのである。すがすがしく潮気漂う海のかなたにしずしずと昇る初日の光は、いつもの太陽と変りないはずなのに、私たちは身も心も洗い清められるような感じになるのは誠に不思議である。暦法の魔術とはよくいつたものである。昔の人は実に偉いなとただ感じ入るのみである。あの火の神に一年の幸福を祈るうやうやしい気持、つつしみ深い人間の悟りの心境かも知れない。「光陰矢の如し」、「一年の計は元旦にあり」とか誠に古臭い言葉ではあるが、私たちは常に過去を省み、寸刻を惜しんで新しい計画とたゆまぬ努力をつづけ、さらにより良い社会を作るために前進しましょう。本誌も発刊以来いよいよ5年目に入ったが、皆様の御指導と御協力によつ

て、本県唯一の統計機関誌としての使命を十分果たして行くように努力する覚悟です。なお表紙の写真は大洗海岸の初日であります。

投稿 観 迎

- 〔内容〕 調査統計に関係するもの又は随想、創作など
- 〔枚数〕 原稿用紙は指定しないが、4,000字程度以内を歓迎します。
- 〔あて名〕 水戸市北三の丸
茨城県調査企画課内
茨城県統計協会
なお採用の分には薄謝を贈ります。



(めん羊の飼育)



(改修成つた弁天池)